

# 1 教育目標と基本方針

## (1) 学校の教育目標

人権尊重の精神を基調とし、新学習指導要領の趣旨を生かし、次の目標を設定する。

- 明るくじょうぶな子・・・健やかな体の育成のための指導の充実
- 進んでやりぬく子・・・主体的に学習に取り組む態度の涵養
- なかよく助け合う子・・・豊かな心の育成・コミュニケーション能力の育成
- ◎正しく判断できる子・・・基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成

学校の教育目標を達成するため、学校の教育活動全てにおいて「知っている子よりやっている子」に育成を目指し、未来を築く豊かな学校の創造に努める。

## (2) 特別支援学級の教育目標

学校の教育目標を基本としながら、児童の実態を考慮して次の目標を掲げる。

- 明るく元気で思いやりがあり、体の丈夫な子
- 最後までやりぬこうと努力する子
- ◎みんなと仲良く助け合い、協働して取り組める子
- 基本的習慣を身に付け、自分のことは自分でできる子

## (3) 学校、学級の教育目標を達成するための基本方針

人権尊重の精神を基調とし、複数担任制を最大限活用できるよう共通理解を図り、児童一人一人の個性や能力に即した指導を心がけ、生きる力の基礎を培う教育を推進する。

### ① 心豊かな人間性を目指す

- 様々な体験活動や人とのかかわりを通して児童が自他を敬愛し、生命を尊重するなど、一人一人の心の成長を大切に生きた学習の場を設定する。
- 教育活動全体を通じて、心と体の健康作りを推進し、健康で安全な生活を営もうとする態度や能力の育成に努める。
- 通常の学級や他の特別支援学級、特別支援学校との交流・共同学習を通して社会性を育て、共に助け合い、支え合いながら豊かな人間関係を育てる。

### ② 確かな学びを目指す

- 児童の心身の発達や障がいの状況、特性を考慮して個別指導計画を作成し、個に応じた教育計画の編成と実施に努める。また、学習内容や児童の実態に応じて、一斉・グループ・個別などの学習形態を工夫する。
- 学校や身近にある自然を活用し、地域の方との交流を通して児童の興味・関心を広げ、主体的に学習しようとする態度を育成する。
- 読書活動を推進したり、音読などの言語活動を取り入れたりして適切な言語環境の整備に努める。

## 2 学習について

教科・領域	内 容	指導形態
日常生活の指導	日常生活に関する指導、朝の会、係活動、自然に関する内容	学年別
算数	個々の児童の実態に応じた基本的な数量、図形、時間と時刻、お金等の指導	グループ
国語	個々の児童の実態に応じた基本的な読み、書き、話す、聞くの指導	グループ
体育	基本の運動、ゲーム、持久走、固定遊具、水泳、サーキット運動	全体→グループ
音楽	歌唱、合奏、身体表現、リトミック	全体→学年別
図工	造形遊び、絵画、工作、版画	全体
生活単元	季節や行事に関する内容、校外学習、調理学習、栽培活動、習字	学年、教室、全体 単元内容によって

## 3 交流について

### 【校内】

- 運動会、遠足、生活科見学、社会科見学は当該学年に参加する。
- たてわり班活動に参加する。
- 1，2年生と生活科の学習で交流したり、合同授業を行ったりする。
- 授業の参加については、児童の実態に応じる。

### 【校外】

- 年間に数回、近隣の特別支援学級や区内の特別支援学級と交流の機会をもつ。  
近隣の施設との交流の機会をもつ。